

傾山-祖母山縦走～ぼちぼち長距離縦走～

【報告者】A屋

【日時】2018年11月23～24日

【天候】晴

【参加者】A屋

《コースタイム》

23日 九折登山口(7:00)～傾山山頂(11:45)～九折越(13:30)～尾平越(17:00) 幕営

24日 幕営地(7:00)～祖母山(11:00)～宮原(12:30)～尾平登山口(14:30)

《 報 告 》

11月23日

連休で泊まりの山行ができそうなので、まだ登ったことのない祖母山に行こうかと季刊noboroを見ながら計画を練る。せっかくなので長く歩きたく傾山から登ることとし、祖母山以降は時間と体力で下山ルートを決めることとする。馬蹄形縦走ならば延長40kmくらい。5年前くらいに縦走を計画した際には傾山の登りで疲弊し、縦走せずに九折越から下山した経験がある。今回は軽量化にも配慮し装備はテントや食料・飲料水含めて約9kgとした。寒波が到来し前泊した車は霜で覆われるほどの寒さだった。

軽アイゼンを携行していなかったことを心配しつつスタートしたが、積雪や凍結は無く杞憂だった。

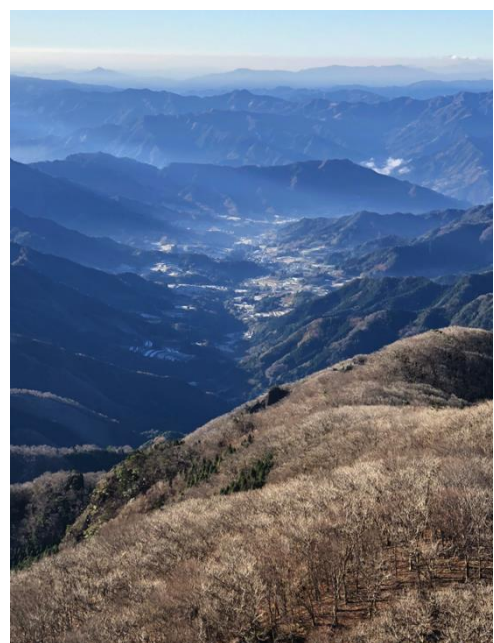
傾山の標高差1,200mの登りで消耗すると縦走する気力が削がれてしまうので、体力温存のためゆっくりマイペースで登ることを心がける。三ツ尾ルートは岩場続きの難所とされているが、想像していたよりも岩場が少なく登りやすい。

傾山の山頂は晴れ渡り、目指す祖母山の山頂がはるか遠くに鎮座していた。傾山以降のなだらかな歩きやすい登山道が続く。縦走をする人は少ないようで誰とも出会わなくなった。脊梁の稜線と景色や雰囲気似ている。水の確保が心配点ではあったが、九折越の水場はチョロチョロ、尾平越付近の水場(鹿よけの柵の中)はそこそこの水が出ていた。いずれも水場を示す親切な案内板があり探すのには苦労しない。

本谷山を過ぎる頃には足が重く感じるようになり、尾平越の平らな場所を幕営地とした。



傾山山頂より



幕営地付近から高千穂方面

11月24日

10時間ぐっすりと眠り、朝食をとって7:00出発。

地形図からは古祖母山～障子岳～祖母山と岩峰を乗り越える激しいアップダウンが続くのかと想像していたが、意外になだらか尾根歩きだった。登山道の上であれば、幕営できそうな場所は無数にあった。前日に遠くに見えた祖母山が間近に迫り、歩いてきた道のりの長さで達成感に悦に入る。



ようやく祖母山をとらえる

祖母山への登りにはハシゴが連続し、染み出しが岩の上でベルグラ状に凍っており足を置く場所に気を使う。山頂は明るく開けており、今回の縦走路で一番の展望が楽しめた。堂々とした山容と山頂からの眺望は日本百名山の一座であるのも納得できる。九合目小屋は無人であるものの中はきれいに維持されており、確実な水場としても頼れる。

この辺りで馬蹄形縦走を完遂するか悩むが、これまでのコースタイムから計算すると下山は日没頃になると予想され足に疲労感もあったため、宮原より下山することにした。尾平に14:30頃に下山し、九折登山口まで長い車道歩きが始まったが、30分ほど歩いた頃に車が停まってくれ、傾山登山口付近まで乗せて頂いた。大阪から遠征にきたという登山者の方、ありがとうございました。

今回の山行ではストックのストッパーが壊れて縮まらなくなってしまった。岩場では手に持つと邪魔なので背中とザックの間に差し込んで一角獣のようにハシゴを登った。ストックの点検もしておくべきだったのが反省点である。